

令和4年度 事務事業評価シート（1）

[令和3年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	普及広報事業			事業番号	008-061
担当部署名	文化観光	局	博物館	部	学芸 課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	1.堺の特色ある歴史文化 ～Legacy～	施策	(3) 類稀な堺の歴史文化資源を活かした戦略的な観光誘客の推進	
			有	取組の方向性	①堺の歴史文化資源を活用した滞在、消費拡大促進			
		寄与するKPI	有・無	指標名	延べ宿泊者数			
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(8)働きがいも経済成長も	ターゲット	8.9	
			有	取組	茶の湯や地域の祭り、文化財などの歴史文化の保全・魅力発信			
		寄与するKPI	有・無	指標名	—			
		無	現状値	—	目標値	—		

2	関連計画			
3	事業開始年度	昭和 55 年度	点検年度	令和 7 年度
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	文化財保護法・博物館法		

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	出先機関				
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	市民及び本市への来訪者	対象数	1,111,000	単位	人
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	普及業務では、市民及び来訪者への堺の歴史文化を学ぶ生涯学習の場としての機能を担う。特に市内の小中学生に対しては、展示品を通して堺の歴史・文化・伝統を知ってもらうことで、市民の郷土愛の醸成を図ることを目的とする。広報業務では、堺の歴史文化の発信拠点として、その魅力を広報し、博物館への来館を促すことを目的とする。				
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など ※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	<p>【市民及び来訪者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文書講習会の実施 <p>【小中学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験学習会の開催 ミュージアムバスの実施 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館ボランティア制度の導入及び運営 博物館研究報告の作成 博物館事業全般の広報業務 				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)	委託業務の受注者				
10	公民連携・協働事業					

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標	点検年度
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和7年度	
11 博物館の満足度の向上	%	目標値	95	98	98		98
		実績値	—	98			
		達成率	—	100%			
当該指標を選定した理由		普及広報事業は、博物館への来館促進を目的としていることから、最終的な成果指標として、満足度の向上を設定した。アンケートの実施による。					
目標値の設定根拠・算出方法		常に前年の満足度を上回る目標値を設定した。令和2年度はコロナ禍によりアンケートを実施できなかった。					
活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標		
			令和2年度	令和3年度	令和4年度		
12 体験学習会・古文書講習会の開催回数	回	目標値	4	10	14		
		実績値	4	8			
		達成率	100%	80%			
当該指標を選定した理由		コロナ禍の影響による臨時休館やイベント中止により、昨年度は当初計画どおりに開催できなかった。今年度も同様の状況になる可能性が高いため、今年度の計画の約半分の開催回数を目標とした。					
目標値の設定根拠・算出方法		参加者延べ人数。令和2年度はコロナ禍により実施期間大幅減のため目標値を下げる。					

令和4年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	普及広報事業	事業番号	008-061
-------	--------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

事業費 (a)	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度	
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算	
事業費 (a)	1,699	929	3,873	1,803	3,964	
13 財源内訳	国支出金				0	
	府支出金				0	
	市債				0	
	その他 (物品売払収入・徴収金収入)	180	33	2,310	0	2,450
	受益者負担金(使用料、手数料等)	162			1	10
一般財源	1,357	896	1,563	1,802	1,504	
14 人件費 (b)	22,470	23,240	23,240	23,240	19,140	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	24,169	24,169	27,113	25,043	23,104	

事業費の内訳

(単位：千円)

事業費内訳	項目	年度		事業費	うち一般財源	項目	年度		事業費	うち一般財源
		R3	決算				R3	決算		
16	報償費	R3	決算	25	25	パンフレット等作製・配布業務	R3	決算	0	0
		R4	予算	76	76		R4	予算	420	420
	旅費	R3	決算	5	5	研究発表会運営業務	R3	決算	0	0
		R4	予算	50	50		R4	予算	0	0
	需用費	R3	決算	198	197	冊子等作成業務	R3	決算	299	299
		R4	予算	381	371		R4	予算	300	0
広告料	R3	決算	484	484	ミュージアムグッズ作製業務	R3	決算	763	763	
	R4	予算	500	500		R4	予算	2,000	0	
その他役務費	R3	決算	29	29	会場等借上料等	R3	決算	0	0	
	R4	予算	87	87		R4	予算	150	0	

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和2年度	令和3年度
		① 入館者数	回
② 上記①にかかる年間経費	千円	24,169	25,043
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	278	337
備考 (算出についての説明等)		普及広報事業の目的の一つとして、入館者の促進があげられるため。	

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年度よりさらに開館日数・観覧者数も減少したことにより、さらに費用対効果は下がることになった。また、この状況下では、積極的に周知・集客を図ることができない側面もあった。
----	--

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19	体験学習会等の普及事業の対象年齢は幅広く、普段は博物館を訪れることのない方々が来館されるきっかけとなる事業と位置付けている。とりわけ小・中学生が来館し、堺の歴史文化に興味をもってもらうことは、郷土愛の醸成を図るとともに、次世代への来館者促進にも寄与するものと考え。また、小・中学生の来館は、保護者層の来館にもつながっていくので、今後も普及事業を積極的に進めることが重要である。
----	--